

今月のエキゾチック症例(第16回 2025年3月)

## 皮膚？乳腺？－フクロモモンガの乳腺腫瘍－

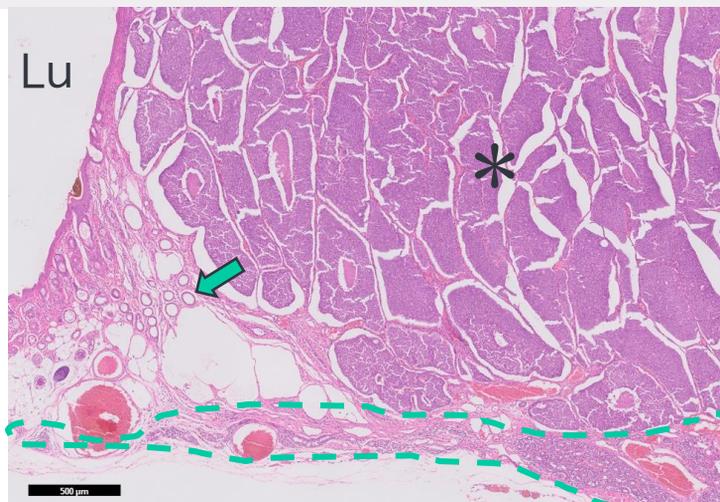
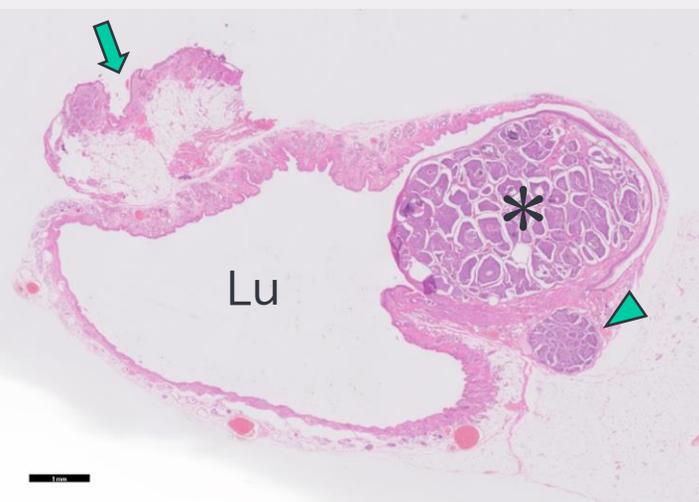


図 1. 組織写真、ルーペ像。体表の皮膚(矢印)より深部に位置する育児嚢(Lu)の内腔に一部が突出する腫瘍(\*)が認められ、結節状に広がっています(矢頭)。

図 2. 組織写真、図1と別部位の低倍像。腫瘍(\*)の深部側に既存の乳腺組織(点線内)がありますが、育児嚢(Lu)の皮膚にもアポクリン腺(矢印)もあります。

フクロモモンガは有袋類で育児嚢を持ち、育児嚢内に4個乳頭を持ちます。皮下側に皮膚が陥凹して育児嚢を形成し(図1)、育児嚢の皮膚の真皮には、毛包に開口するアポクリン(汗)腺が発達していますが、深部側には乳腺組織が存在し(図2)、乳腺は乳頭の乳管へ開口します。乳腺はアポクリン腺の一種で、細胞形態のみで区別できず、解剖学的な位置が重要になりますが、腫瘍が進行すると由来の判別が難しくなります。

フクロモモンガの乳腺腫瘍の報告例は少なく、疫学や挙動、組織学的特徴は不明ですが、報告論文や弊社の履歴からは悪性の単純癌が多いようです。単純癌では、乳腺分泌上皮由来腫瘍細胞が、管状、管状乳頭状、充実性、篩状、面胞状、浸潤性微小乳頭状、孤在性などで増殖します。腫瘍細胞の異型性の程度や有糸分裂数は様々です。

フクロモモンガの乳腺癌は再発やリンパ節・遠隔臓器への転移など悪性挙動を示す症例があります。写真の症例も、乳腺腫瘍と同時に小型の皮膚転移巣が提出されました。

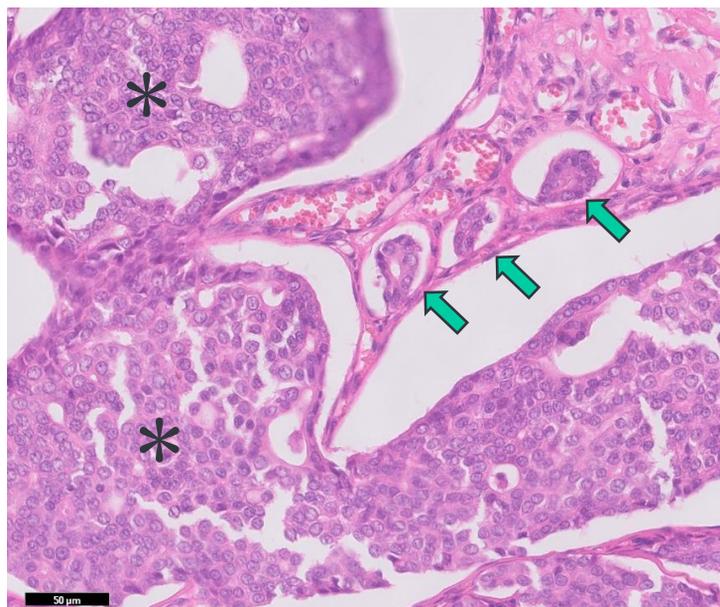


図 3. 組織写真、高倍像。乳腺上皮由来腫瘍細胞が、重層化しながら腺管形成性、充実性、篩状(\*)、浸潤性に微小乳頭状(矢印)に増殖しており、一部は線維増生を伴っています。この腫瘍細胞の異型性は中等度で、有糸分裂像は稀です。

### 執筆者からの一言

無断での転用/転載は禁止します。

近年の日本で人気のフクロモモンガ、有袋類で育児嚢を持つだけでなく、総排泄腔や特殊な生殖器といった、かなり独特なエキゾチック哺乳類です。ポシェットに収まっておでかけしている姿はとてかわいのですが、げっ歯類のモモンガとは似て非なるものだなと遭遇するたびに感じます。臨床の先生方もきっとそうだと思いますが、解剖学やオリエンテーションなどに悩んで、病理の評価の際に我々もしばしば苦戦します。



執筆: 中嶋 朋美  
DVM, PhD, DJCVP

### 参考文献

1. Keller KA et al., J Exot Pet Med. 2014; 23(3): 277-282.
2. Churgin SM et al., J Exot Pet Med. 2015; 24(4): 441-445.